



立西巻き

[校長先生つぶやき、つぶやく (校長だより)]

尼崎市立立花西小学校

2026.1.22 (木)

No.51

黄帽子と観劇チケット

「…黄帽子ありますか。チケットありますか。」「はい」
学級内での確認のやりとりが続きます。担任の先生は
いません。自分達で動いています。

運動場集合時刻にずいぶん早く集まっていたので尋ねると「5分前行動より10分前くらいにした方がいいかと思って」という自分達で判断した結果の応えが返ってきました。大変立派です。出発が早すぎてもバス停で待つことになることを伝えると「では、1年生の凧揚げを見守っておいてください。」と代表が全体に指示しました。運動場の向こうでは、1年生が楽しそうに凧揚げをしています。

1月21日(水)。6年生は、劇団四季を観劇にアルカイックホールに出かけました。結局、バス停でも20分ほど待ちましたが、道路の歩き方から、バス停での待ち方、さらには、一言も話さないバス内での過ごし方に至るまで、見事な行動…いや考動でした。すっかり定着しているあいさつは、しっかりと行き、学校近くの道路ですれ違う人に挨拶し、どのあたりまで声出したらいいかなあとちょっと戸惑うあたりもかわいいなあと思いました。なんだかほのぼのします。6年生といふと、安心します。先生が不在であっても互いに助け合い、声を掛け合う姿があります。学校や家庭で学んできたことの集大成の姿がここにあると感じます。

阪神尼崎の駅では、担任の先生が手を振って待ってくれていました。子ども達も、にっこりとして手を振り返していました。劇場では、劇団四季のミュージカル「王子と少年」を観劇。『大切なのは、姿かたちではなく、本当のじぶんらしさを見つめること。』のメッセージを受け取り帰路につきました。多くの子ども達が初めてミュージカルを観劇したでしょう。心に感動が刻まれたことは間違ひありません。本物をみることのよさを強く感じました。

そして、私の宝箱にいれようと思うものがまた、ひとつ増えました。それは、観劇チケット(右上写真)です。これは、担任の先生が手作りで用意したものです。よその学校にはありません。うちだけの手作りチケット。一人ひとりに渡っています。子ども達の思い出の一ページを大切にしようとする担任の愛がつまっていることを感じます。チケットにはこう書かれています。「Priceless お金で買えない価値がある」 ミュージカルの素晴らしさと共に、子ども達の成長、先生達の深い愛にも感動した半日となりました。

